

テーマ  
『転入者を地域に！「おやべ暮らし」の発行』

1. 提案の概要

小矢部市の交流人口の増加に伴い、小矢部に興味を持つ若者が増えてきていることから、転入者が地域に溶け込むきっかけづくりとして、冊子『おやべ暮らし・埴生編』の発行を提案します。

また、この冊子を作ることは、地域側にとっても、転入者と交流するきっかけをつくることになり、地域の活性化にもつながるのではないかと考えます。

2. 提案の背景

はじめに、私たちは小矢部市の現状について確認しました。まず、人口の推移については、当小矢部市は昭和61年の37,055人をピークに、富山県を上回る速さで減少が続いています。

特に、若年層の市外への転出が多く、これ以上の人口減少に歯止めをかける必要があると考えられます。

小矢部市では、子育て支援や転入支援など(図1・図2)、様々な取り組みを行っていますが、増加に転じるまでに至っておりません。

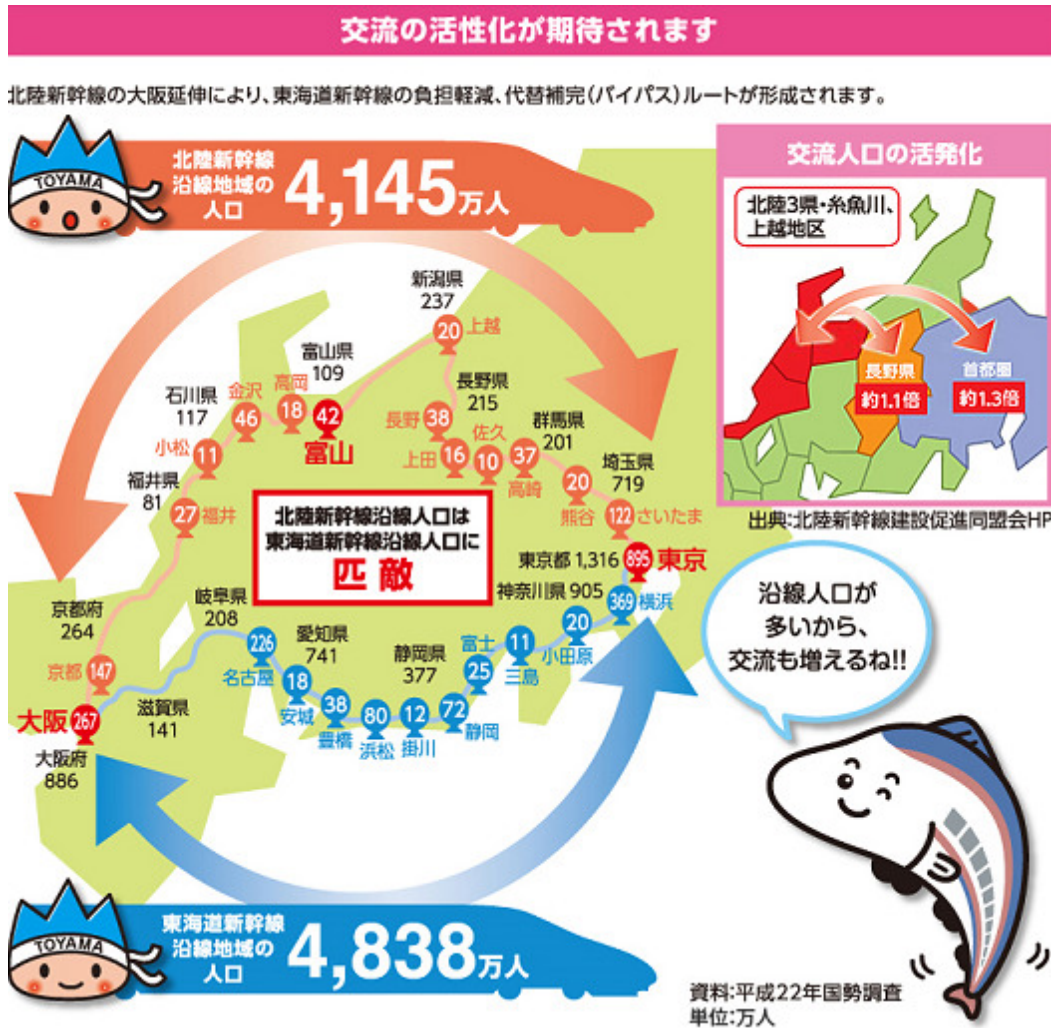


(図1)第3子以降誕生お祝い事業(平成25年5月広報おやべより)



(図2)子育て支援センターの取り組みの様子  
(小矢部市役所 ホームページより)

そんな中、平成 27 年 3 月 14 日には北陸新幹線が開通し、富山～東京駅間が 2 時間 8 分となり、開業前と比較し約 1 時間も短縮されました。平成 22 年の国勢調査では、北陸新幹線の沿線地域の人口が 4,145 万人となり、交流人口の増加が期待されており(図 3)、現在、富山県の観光客の増加や、ものづくりなどの関連産業への波及も見られはじめ、今後も持続的な地域経済の好循環が期待されます。



(図3) 交流の活性化が期待されます(北陸新幹線富山へ ホームページより)

また、同年 7 月 16 日には、本州日本海側並びに北陸地区初のアウトレットモール「三井アウトレットパーク北陸小矢部」が開業しました(図 4)。アウトレットパークは、日本初出店が 10 店舗、北陸初出店が 81 店舗を含む全 173 店舗で構成されており、同社のアウトレットパークの開業時の店舗数としては全国 2 番目の店舗数規模となりました。これは主要幹線道路である国道 8 号沿いにあること、小矢部市内には北陸自動車道と東海北陸自動車道・能越自動車道が交差しており、近隣には IC (約 6 分)、小矢部 IC (約 14 分) などがあり、商圈が富山、石川両県だけでなく、福井、岐阜、愛知、新潟など北陸エリア全域を含む広域からのアクセスに優れた立地であることが考えられます。

また、小矢部市は、年間300万～350万人の来場と年間売上170億円を目指す“アウトレット効果”を機に、アウトレットパークへの来訪者の1%を小矢部市内の周遊観光につなげたいと考えており、これまでとは大きく交流人口が増加することが予想されます。



(図4)賑わいを見せるアウトレットモール(asoview! ホームページより)

そこで私たちは、小矢部に興味を持った人が移住した際、まずはアパート住まいが基本だと考えられますが、将来、一戸建てによる定住に繋がるにはどうすれば良いのかを考えることにしました。

### 3. 先進地視察研修をして ～1年目：滋賀県彦根市～

まず、私たちは、小矢部市の活性化を図る策の一つとして、定住人口の増加を考えることとし、平成26年10月27日に先進地視察として、定住人口増加策に取り組んでいる滋賀県彦根市へ視察を行いました(図5)。



(図5)小江戸ひこね町屋情報バンクについて説明を受け、意見交換  
(彦根商工会議所にて)

滋賀県彦根市は、旧市街地の空洞化が進み、空き町屋、空き古民家が増加していました。そして、入居者がいなくなった空き屋を活用する取り組みとして、「小江戸ひこね町屋情報バンク」を作り、古民家、町屋の空き物件を保存、再生、有効活用していました(図6)。

その内容は、旧市街地に残されている風情のある町屋や古民家をデータベース化し、住居や店舗として再活用するため、空き町屋の情報収集・発信及び町屋所有者や活用希望者に対する相談等を受け付ける活動であり、古き良き風情の維持と転入者による活気溢れるまちづくりを目指していました。



(図6)小江戸ひこね町屋情報バンク活用事例(実際の売買対象となる物件・飲食店舗として再生)

そして、視察研修をした結果、小矢部市でその取り組みを空き家対策に絡め、定住人口の促進につなげるのは難しい、という一つの結論に至りました。

その理由として、一つには、彦根市では、非常に知名度の高い歴史的な建造物の彦根城があり、その城下町として栄えた町のため、旧市街地の規模が大きく、物件がある程度集積していること。彦根城とセットでアピールできる強みがあります。彦根城があるために古い町屋、古民家の存在意義が高まっているという面があります。小矢部には、そういったわかりやすい歴史的建造物が無く、また、町屋に限定するメリットが少ないと考えられます。

二つ目には、まちづくり研究会の限られた活動期間の中で、彦根のような産学官が連携した体制づくりまでは難しいのではないかと、という二点が理由となりました。

しかしながら、彦根の取り組みをヒントに、まちづくり研究会では、「人と地域の結びつき」をサポートできる取り組みがあればと考えました。

#### 4. 他自治体の取り組み ～滋賀県高島市～

そこで、私たちが考える「人と地域の結びつき」をサポートできる取り組みを模索するにあたり、同じ滋賀県内で「地域の教科書」という冊子を作成し、定住促進に活用している滋賀県高島市の政策に興味を抱きました。

高島市では、空き家対策の一環として、その地域に溶け込みやすいように地域ごとに冊子を作成。現在は19地区の冊子が作成されています(図7・図8)。



(図7) 地域の教科書 多賀編

(湖東地域定住支援ネットワーク ホームページより)

(図8) 地域おこし協力隊員の取り組み

(滋賀県高島市 ホームページより)



地域の教科書とは、地域住民と新たな住民とを繋ぐガイドマップのようなものといえます。タイトルの通り、市外から移住してこられた人のために、その地域を7つの視点で解説したこの地区独自の教科書となっており、転入者が地域コミュニティの一員として末永く生活できるよう、地域の暮らしや年中行事、風習やしきたりなどを分かりやすく、取りまとめたものとなっています。

また、その作成にあたっては、地域住民だけでなく市外から転入された方々が、地域おこし協力隊として自ら足を運び、その地域行事に参加し交流を深め、その

地域の風土を感じた体験を交え、冊子の作成に至っているとのことでした。このことにより、受け入れる側の意識改革も起こり、地元住民が自らの歴史や伝統を再確認することにも繋がり、地域の伝統等を次世代へ継承していけるようなきっかけになりました。新たにその地域の力になりうる人々の橋渡しとしての役割がこの教科書にはあると考えられます。

## 5. 先進地視察研修をして ～2年目：新潟県南魚沼市～

その後、研究を続けるにあたり、若者の定住促進に繋げるためには、若者が冊子の表紙を見て、一度は手に取り、中身に目を通してもらえるような“インパクト”が必要なのではないかと感じました。

そこで、平成 27 年 9 月 4 日に南魚沼市役所を訪れ、人口減少問題プロジェクトの取り組みとして実施された「若者定住促進事業(LIFE in)」について視察してきました。

南魚沼市では、人口流出の原因として、進学・就職のために若者が首都圏などに出て行き、卒業しても帰ってくる人が少ないということから、ターゲットを若者に絞って定住対策に取り組んでいました(図9)。



(図9)南魚沼市若者定住促進ライフスタイルマガジン(LIFE in・美女旅より)

これらの冊子を作成し、町の声や来客者からの反応を見ると、若年層からの評判が良く、「店舗に置きたいので冊子を下さい」という声が多いとのことでした。実際に私たちも手に取り中身を見ると、若者や子どもの写真が多く活用されており、読んでも飽きのこない作りで、Uターンで地元へ戻り、故郷で仕事に取り組んでいる人々にスポットを当て、取材した記事が掲載されていました。

また、南魚沼市の定住に対する考え方も紹介するなど、ただの情報誌で終わらず、「住む・働く・育てる・街づくり」の各視点にも着眼した冊子となっていました(図10)。

これから南魚沼市への定住を考えている方へ

## 南魚沼市の取組み

お問い合わせ 南魚沼市総務部 企画政策課 TEL.025-773-6672  
南魚沼市公式ウェブサイト <http://www.city.misamisanoonuma.nigata.jp>

### 住む 地域の資源を活かして

**【南魚沼の木で家づくり事業】**

- 住宅建設時の前金不足を補填する。
- 補助金の上限は50万円。

**【「ウッドタウン八色」宅地分譲】**

- 県外からの移住促進を目的として500坪以下の方へ、買入費に対し1円未満の3,000円を補助。

**【住宅リフォーム事業補助金】**

- 個人住宅のリフォーム工事等、市内業者が施工する工事について補助。
- 屋根のふき替え・塗装、外壁の修繕、暖房の設置、水回りの改修、床・天井・内装の張り替え、など 補助額は上限10万円。

**【就農体験】**

- 「グリーンツーリズム推進協議会」を主体とし、農業体験旅行を企画しています。田植え、実習(稲刈り、秋の収穫、高田祭など)を通して四季折々の自然を満喫することができます。

**【バイオマス利活用事業】**

- 農産物加工や資源型社会の形成のため、バイオマス(再生可能な、生物由来の可燃性資源で化石資源を除いたもの)資源の活用を促します。
- ペレットストーブ・ペレットボイラー購入補助。国有林の整備を支援し、木材の活用～消費までのサイクルをつくらせます。

**【新エネルギー等の普及促進】**

- 太陽光発電システムの設置補助。
- 補助金の上限は24万円。

### 育てる

**親子のふれあい・保育**

**【絵の紙の広場】**

- 町民から入賞者の冊子が自由に読み取り閲覧いただけます。
- 大町児童会館(月)・1・3
- ふれあいセンター(金)・月～金
- 北魚沼会館(月)・金

**【ここに広場】**

- 入賞者の冊子と入賞者の方を参加した、保育園で読む遊びの広場。どの地域の保育園でもここに広場にも参加できます。

**【心豊かな子育て教室「そだち学校」「親子サロン」】**

- 入賞者の冊子の読み比べ、体験等の場。
- 大町地域福祉協議会、大町地域、北魚沼地域でそれぞれ毎月開催から開催中。

**【多様な保育サービス】**

- 保育所保育事業の改善促進を図る施設へ補助。
- (認定保育) 農業体験施設等
- (認定保育) 野の自然保育室、おかし保育室

**【ファミリーサポートセンター】**

- 子育ての手助けをして欲しい人に保育サービスの提供を行う企業制の保育事業。

**【読書のつどい、絵本のへやなど】**

- 町民の読書会などを中心に、図書館で読書の会を行っています。

**【待機児童ゼロの維持】**

- 保育園の増設促進の取り組み、希望するすべての子どもへの保育を保障。

### 働く

**【自主的出店者支援事業】**

- 自治体の女性活躍への取組として1年間の支援補助。
- 対象者：新規創業で3年以内の店舗経営を行う人。 ●月給実質の1/2を支付、上限2万円。

**【WEB企業ガイド】**

- 就職学生、Uターン・Iターン・Jターンなど、南魚沼市での就職を希望する人へ、ウェブサイトで市内企業情報の紹介を行っています。

**【ICLOVE(アイクラブ)】**

国際大学・南魚沼市地域新規事業推進ラボプロジェクト

- 地域企業と国際大学が連携し、企業の新規事業を支援して成長させる。国際大学の卒業生が持つ国際的なコンタクトを活用し、新たなビジネスモデルの開発を促します。 <http://www.ij.ac.jp/love/>

**【中小企業研修補助】**

- 参加する研修期間中の研修費用について、企業が負担する研修費を補助。
- 研修費の7割を補助。 ●27年度から実施予定。

### 街づくり 変わった視点でまちづくり

**【ご当地グルメで地域おこし】**

- 観光活動の中心となる「ご当地グルメ」をテーマにしたご当地グルメ推進協議会を設け、協議して、地域全体の魅力を発信しています。
- 市民共同によるまちづくり団体(南魚沼市ふるさと推進協議会)が、認定ラガー(一般消費者の嗜好のイメージを具現化した商品)を製造加工し、各都道府県に販路を拡大しています。 <http://www.kkbaidon.com>

**【女子力観光プロモーションチーム】**

- 女性の魅力を活かした観光振興の推進を目的として、イベント企画や観光振興事業への参画を行うことを目的とした、若手も活躍する一歩先陣チームで結成されたチームです。 <http://www.kkbaidon.com>

**【美女孩プロジェクト】**

- 地元住民、地元を愛する若者の女の子が生み出した魅力を紹介する観光パンフレット。 <http://www.kkbaidon.com>

(図10)南魚沼市若者定住促進ライフスタイルマガジン(LIFE in)内の取組み紹介ページ

そして、南魚沼市でのターゲットを明確に決めてから冊子を作っていたことから、私たちは、アウトレットの従業員などの若者の転入者をメインターゲットにした冊子を作成しようと考えました。

## 6. 研究を通じて

現在、小矢部市での人口増加のための取り組みとして、市外の人をターゲットとして転入を促すため、定住促進助成金や3世代同居推進リフォーム助成金、空き家・空き地情報バンク、おやべCM・定住促進PRショートムービーなどを進めています(図11)。

そこで、私たちは、転入者をターゲットとし、地域ごとに「おやべ暮らし」という冊子を発行し、この冊子を通じて、転入してきた人と地域の間の交流を深めることで定住してもらえることを期待し、定住までいかななくても、転出した後も

47

地域行事に参加するような関係を築いていきたいと考えます。

また、地域側としても、地域内の新たな風を取り込むことにつながり、地域行事の人手不足の解消にもつながると考えました。



(図 11) 定住促進PRショートムービー

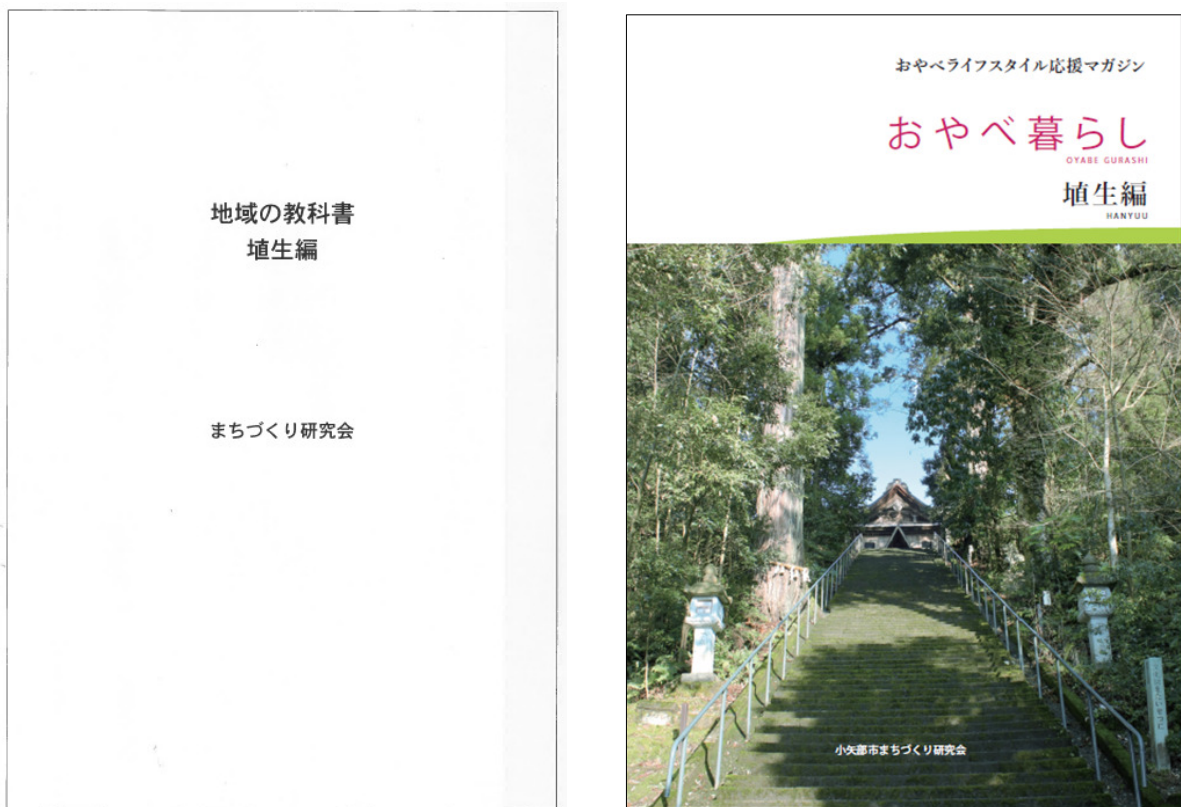
(北陸新幹線で行こう！北陸観光ナビ ホームページより)

## 7. 「おやべ暮らし」の概要① ～ねらい・配布について～

そこで、私たちが考える「おやべ暮らし」は、アウトレットの従業員などでパートへ転入してきた若者をターゲットとし、イメージ先行で、手に取って読んでもらえることを意識したデザインの冊子を作成することにしました。

その背景には、確かに若者向けで、定住促進に繋がりたいという考えがあるものの、提案の概要でもお示したように、地域と転入者の交流のきっかけづくりを期待することから、堅苦しい内容ではなく、気軽に手に取りいつでも見ることができ、保存できるものという考えに至りました（図 11）。





((図 11)おやべ暮らしのデザイン(左:当初案・右:完成した表紙)

また、配布及び周知については、小矢部市役所内の市民課及び企画政策課にて、その地域に転入してきた人を対象にその都度、配布し、アパートなどで仮住まいをしている人たちには、ポストに投函してはどうかと考えました。

そして、将来的には、小矢部市に定住してもらうことを着地点と考えておりません。

## 8. おやべ暮らしの概要② ～対象地区・内容について～

小矢部市には 18 の地区があり、その地区毎の分け方の場合、ある程度大まかな区分となるため、さらにその地区内での町内ごとの差を反映しないと、実際に移住する場所の実情とずれが生じたり、本当に知りたいと思う情報まで掲載できない可能性がありました。

しかしながら、町内ごとの作成となると市内に 204 もあり、あまりにもその数が多いすぎるため、現実的には難しいのではないかと考えました。

このことから、今回は、座長の出身地区であり、研究員の一人も同じ地区であったこともあり、調査研究がやり易いのではとの意見があり、「殖生地区」を対象として作成することにしました。

また、その内容としては、以下の9つとしてみました。

- ① 埴生の成り立ちの紹介
- ② 埴生で在住者へインタビュー
- ③ 飲食店・医療機関等の紹介
- ④ 神事・仏事
- ⑤ ごみの出し方
- ⑥ あそびば
- ⑦ 学校
- ⑧ 交通機関
- ⑨ 埴生八幡宮や若宮古墳といった歴史的文化財の紹介

今後は、おやべ暮らし 石動編、津沢編、松沢編など、続編を作成していき、地域ごとに特色をもった様々な冊子を作成してみても良いのではないかと考えます。

## 9. 「おやべ暮らし」で期待される効果

最後に、私たちが考えた「おやべ暮らし」の発行によって、2つの側面から期待される効果を整理してみました。

### 【転入者側からみた効果】

- ・ 小矢部に興味を抱き、歴史的文化に触れるきっかけになる。
- ・ 地域との交流を深めることで、アパート住まいから、将来的には一戸建てによる定住に結びつく。
- ・ 定住まで結びつかなくても、転出した後も地域行事に近づくとまた戻ってくるような関係の構築につながる。

### 【地元住民側からみた効果】

- ・ 地域と転入者が交流することにより、地域に新たな風を吹き込める。

私たちの考える「おやべ暮らし」の活用によって、小矢部市に

**定住人口の増加＋地域の活性化** をもたらすことができると考えます。

※次ページからは、冊子「おやべ暮らし」から抜粋

おやベライフスタイル応援マガジン

# おやベ暮らし

OYABE GURASHI

## 埴生編

HANYUU



小矢部市まちづくり研究会

### 【埴生地域からの市内商業施設、市外商業施設等への移動時間】

#### （自動車）

- ・三井アウトレットパーク武蔵小矢部：約10分（距離約5km）
- ・ピアゴ小矢部店：約5分（距離約2.2km）
- ・イオンモールとらなみ：約15分（距離約10km）
- ・高岡駅：約30分（距離約19.4km）
- ・イオンモール高岡：約30分（距離約20km）
- ・高岡駅：高速道路利用で約50分 使用しない場合約60分
- ・金沢駅：高速道路利用で約30分 使用しない場合約40分

#### （電車）

- ・高岡駅：あいの風とやま鉄道で約30分
- ・金沢駅：あいの風とやま鉄道（あいの風とやま鉄道）で約60分

発行者／小矢部市まちづくり研究会 〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号 TEL.0766-67-1700  
発行日 2015年1月 003頁



小矢部市は富山県の最西端に位置し、高岡市、砺波市、南砺市、そして石川県金沢市、津幡町と隣接しています。また、市内には北陸自動車道、東海北陸自動車道、能登自動車道が交わり高岡市、金沢市は通勤圏内、五箇山や氷見海岸へは約30kmと通勤・行業に便利な地域です。

埴生は埴生地区の中央に位置し、西部に砺波山の丘陵があり、そのふもと部分で構成されています。平野部には国道小矢部福光線や、長、西畑沼地内につながる市道が通っており、県道の沿線を中心に市街地を形成し、隣接する綾子、野宮へと町並みが続いています。埴生西部の山地や東部の沼、水田は宅地化が進んで、都市化現象が現れています。

鉄道線に沿って西部山ろくに台地が広がり、ここに昭和40年代から民間による宅地造成が行われ、昭和47年に20戸あまりの住宅ができて、48年に吉和台という町内会が誕生しました。その後、53年には118世帯に急増し大町内会になりました。



# 埴生

HANYUU

富山県小矢部市埴生  
人口 1942人  
総世帯数 766世帯  
面積 5,073.924㎡  
（平成22年国勢調査特報）

### Index

埴生で暮らす。

埴生在住者インタビュー	03
志望、あそびば、学校情報	05
行事・仕事・行事情報	07

埴生を知る。

埴生八幡宮	09
-------	----



源義仲戦勝の地 供何加羅湖平の麓から埴生を眺めて



